

羅臼町観光振興ビジョン



【概要版】

北海道目梨郡羅臼町

平成 28 年 4 月

羅臼町観光振興ビジョンについて

観光振興ビジョンの必要性

観光を地域の重要な産業として認識し、町民一丸となって魅力のあるまちづくりを目指すためには、羅臼町観光の現状と課題、今後の取り組みや将来あるべき姿に向けた方向性を共有する必要があります。

観光振興ビジョン策定の趣旨

羅臼町は、基幹産業である漁業の不振が続き、少子高齢化や都市部への流出により人口減少が加速しています。

観光は、2005年（平成17年）の知床の世界自然遺産登録を機に観光客の入り込みが増加し、登録初年度は約75万人が来町しましたが、登録後翌年から入り込みは減少し、近年では50万人台で推移しており、宿泊率も20%以下で依然として通過型観光です。

地域の魅力ある自然や食材を生かした体験観光やエコツーリズムを推進するため、知床羅臼町観光協会が主体となり、羅臼漁業協同組合や羅臼町旅館組合などと連携を図りながら各種事業を展開し、地域の経済効果を高め、交流人口の拡大と活気あるまちづくりを進めるため観光振興ビジョンを策定します。



観光振興ビジョンの目的

羅臼町観光振興ビジョンでは、町民の希望を叶えるまちづくりの一つとして、観光振興の方向性を示します。

少子高齢化・都市部への人口流出により人口減少が進む中で、目指すべきは交流人口の拡大です。交流人口の拡大は観光振興に直接的な影響を及ぼすものであるため、羅臼町民一丸となって観光客の受け入れ体制を整え、自らが地域の魅力を積極的に売り込むことで、多くの観光客をこの地に呼び、地域経済を潤し、誇りと愛着の持てる町であり続けることを目指します。

推進期間

平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

社会経済情勢の変化に適切に対応していくため、このビジョンの進捗状況を随時点検するとともに、必要に応じて見直しを行います。

羅臼町の観光の現状と課題

観光の現状

- 平成 17 年 7 月に知床が世界自然遺産に登録されてから、宿泊施設の新設や増改築、観光船の新規参入など、民間事業者による観光事業の拡大が進められています。
- 観光客の入り込み状況は、世界自然遺産登録の平成 17 年度は前年比 6%と増加したものの、平成 18 年度は予想推計を下回り、観光客の入り込みに対する宿泊率も 20%以下であり、依然として通過型の観光です。
- 世界自然遺産・国立公園「知床」の自然環境については、情報発信拠点として平成 19 年 5 月に新しい羅臼ビジターセンターがオープンし、利用者が増加している中、更に平成 21 年 6 月にはルサ地区に世界自然遺産の羅臼側の拠点としてフィールドハウスが建設されました。
- 近年では観光船事業が好調であり、ホエールウォッチング・バードウォッチングや流氷観光に国内外から多くの観光客が訪れています。
- 外国人の宿泊者は増加しているものの、全体的な観光客の滞在型にはつながっておらず、観光客の宿泊数は減少傾向です。
- 滞在型観光を進めるためには、1 日遊べる(遊びたいと思う)題材が必要で、そのためのメニューを幅広く充実させていく必要があります。
- 受け入れに伴うガイド養成が急務となっています。



観光の課題

課題① 通過型観光からの脱却

当町は交通アクセスが充分整備されてないこともあり、以前として通過型観光から脱却できていません。

羅臼町を十分に堪能し長期滞在してもらうための、地域資源を活かした体験型観光メニューの開発を図り、滞在型観光の振興に努める必要があります。

課題② 通年観光の平準化

繁忙期と閑散期の差が激しく、4月～6月及び10月～1月の閑散期におけるプログラム開発や外国人観光客誘致など、通年観光の平準化が重要な課題のひとつとなっています。

課題③ 受入れ体制の整備と観光ガイドの養成

ホエールウォッチング等による観光船事業の定着や修学旅行等の誘致、にっぽん丸の寄港など、交流人口の拡大が図られつつありますが、天候に左右される場合もあるため、屋内や陸上での代替プログラムの設定も必要です。

更に恵まれた資源と地域の特色を生かした他の町では体験できないオンリーワンの本物体験事業の開発や外国人観光客の受入れ体制の整備、観光ガイドの養成が求められています。

当町の観光客の受け入れ体制については、まだまだ充分とは言えず、繁忙期の観光ガイドや外国人に対応可能な人材の確保、インバウンドの受け入れに向けた町内案内看板などの環境整備も急務となっています。

また、町内を運行する交通機関は定期バスとハイヤーしかないため、移動交通手段が不便であり、観光客等の足となる交通手段の確保が課題となっています。

課題④ お客様の視点

観光客及び旅行会社は、「羅臼町がどのような町で、どんな体験ができ、何が食べられるのか」などあまり情報を得られていないのが現状であります。

そのため、旅行者ニーズの把握と積極的な情報の発信を行っていく必要があります。



観光ビジョンの取り組み

※戦略的な観光振興ビジョンの展開

《羅臼町への新しい人の流れをつくる》 活力に満ちたまちの姿

観光客等の流入による交流人口の拡大と地域産業の振興及び活性化

総合戦略

取組① 交流人口の拡大事業

知床羅臼町観光協会と連携し、観光DVD等を活用したPR活動を実施することで、交流人口の拡大を図ります。

取組② 観光ガイドの養成事業

当町と気候、野生動物、植生及び地形等が酷似している世界的にもエコツアーの先進地域を視察し、観光客へのマネージメントや観光素材の見せ方と保護との両立という世界最先端の手法を学んだネイチャーガイドが、視察で得たノウハウを研修会等で町民ガイド等に対して還元することで、観光ガイドを育成し、今後の受け入れ態勢の充実を図ります。

取組③ 修学旅行受け入れ体制の充実

知床羅臼町体験学習推進協議会を中心に関係団体と連携し、修学旅行の誘致・受け入れ体制、プログラムの充実を図ります。

重点事項

取組④ 観光地としての魅力づくり・滞在型観光の推進

魅力的なサービスやプログラムの観光商品化、土産品などのブラッシュアップに取り組み、新たな需要創出による消費喚起と滞在日数の増加を図ります。

閑散期における観光客の誘致、天候に左右されないプログラムの開発、エコツアー参加者等の移動交通手段の確立を進め、通年平準化と滞在型観光を目指します。

取組⑤ エコツーリズムの充実

生態系の豊かなつながりや生物多様性を実感できる「体験プログラム」及び自然と漁業の共生を伝える「漁業エコツーリズムプログラム」等、エコツーリズムの充実を図り、質の向上に向けたガイド事業者の育成に取り組みます。

取組⑥ 戦略的な宣伝誘致活動と羅臼ファンの獲得

ターゲティング「5W2H（誰が・何を・いつ・どこで・どうして・どのように・いくらで）」整理の浸透・習慣化を図り、限られた財源を最大限に活かす戦略的な宣伝誘致活動を行うとともに、一体的で効果的な情報発信により潜在ニーズを顕在化させ、新たな羅臼ファンの獲得を目指します。

おもてなし

①宿泊観光サービス向上への取組

他の観光地と差別化する要素としては、「接客サービス」「料理」「お土産」「周辺の活性化による観光付加価値を高める」等がありますが、より満足が得られるためのサービス水準の向上を目指します。

迎え入れる側の対応として、個人旅行者への情報発信機能の充実に加え、ガイドの育成、外国語による案内板の整備、外国人受入体制の整備、接客サービスの向上等、観光関係者のみではなく、羅臼町全体で旅行者を受け入れられるよう地域が連帯感を持った活動を促進します。

②日帰り観光サービス向上への取組

日帰り客への対策も、観光の活性化のための大きな要素と位置付ける必要があります。これらの動向にも調査研究に努め、日帰り観光客のニーズを把握することが重要であり、そこから魅力ある「知床らうす」として認知される事でリピーターを増やし、今後の全体的な入り込みと宿泊客の増加に結びつくような取り組みを検討します。



観光ビジョンの推進体制

観光により地域を活性化するためには、広く観光についての関心と理解を深めるとともに、知床羅臼町観光協会を中心に各関係団体や関連業界との連携し、町を挙げて観光振興に取り組む体制を強化します。

【 町民 】

観光が羅臼町にとって大きな効果をもたらす一つであることを認識し、羅臼町民が一丸となって「おもてなし」の心を持ち、旅行者を受け入れられるような魅力ある町づくりを進めます。

【 観光事業者 】

羅臼町の観光振興を推進する最前線に立ち、最高の商品とサービスを提供するプロ意識を持ち、密接な連携を図りながら観光振興の向上と地域経済への貢献に努め、自然環境に恵まれた立地条件を生かした取り組みを進めます。

協働

【 観光協会 】

羅臼町の観光を支える情報発信の中心として、観光に係る事業をサポートし、観光事業者や各団体との連携や調整を図るとともに、観光客のニーズにあった情報の収集と提供を行うことで、羅臼町の観光振興の活性化を進めます。

【 町行政 】

観光を将来の主要産業の一つとして認識し、観光振興の主体的及び広域的な取り組みを進めるとともに、観光協会や観光事業者等の取り組みを積極的に支援し、地域の経済効果を高め、交流人口の増加による定住人口の拡大と活気のあるまちづくりを進めます。

協働のまちづくり

想像から創造へ

自助・共助・公助～協働と役割分担・人材育成

推進体制イメージ

